

＜平成28年度学位授与式 式辞＞

本日ここに、平成28年度岐阜薬科大学学位授与式を挙りましたところ、公私とも大変ご多忙にも拘わらず岐阜市長 細江茂光様、岐阜市議会議長 杉山利夫様、岐阜大学長 森脇久隆様、同窓会長 宇野進様、後援会長 吉元一弘様はじめ多くのご来賓の方々にご臨席を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

ただいま、博士10名に、修士(薬科学)36名、並びに学士(薬学)83名、同じく学士(薬科学)42名に、それぞれ学位を授与いたしました。

学位を取得されました皆様方には、本当におめでとうございました。皆様方には今日(こんにち)を迎えるまでには、楽しいことやうれしいこと、また時にはつらいことなど様々な経験をされたことと思いますが、その都度、指導教官はもとよりご両親・ご家族、また友人の励ましや支援があったことと存じます。是非、その方々への感謝の気持ちを忘れないでいただくとともに、これまでの皆様方のご努力に対し心より敬意を表します。

また、ご臨席いただいておりますご家族の皆様方におかれましても、そのお喜びはひとしおと存じます。心からお祝い・お慶びを申し上げます。

さて、皆様方には、岐阜薬科大学を巣立ち、医療の現場や医薬品の研究・開発の分野、あるいは基礎研究や行政分野など様々な分野で、本学で学んだ薬学の知識を活かしてご活躍されることと存じますが、皆様方が進まれる薬学・医療の分野は、今、大きな変革・改革が求められております。

医療・健康分野におきましては、ご承知のとおり我が国は世界でも類を見ない超長寿社会・高齢化社会を迎えております。一方で平均寿命と健康寿命の差が男性は9歳、女性は12歳もあることから、医療費の高騰などの問題があり、健康寿命の延伸が国を挙げた大きな課題となっております。

このため、国などにおいては健康寿命の延伸を図るため、在宅医療を含めた最適な薬物療法の提供、セルフメディケーションの推進、地域包括ケアシステムの構築など多くの施策が進められております。

これらを適切に推進するためには例えば、病院などの医療機関においては、チーム医療の中でがん専門薬剤師など「高度専門薬剤師」が、また、市中の薬局においては地域包括ケアシステムを推進するための「かかりつけ薬局・薬剤師」など、「薬の専門家」としての薬剤師への期待が一層大きくなってきております。

こうした中で、皆様方は今後、自分は何をすべきかを常に自問し、日々研鑽していただきたいと思っております。

また、医薬品の研究・開発、創薬と呼ばれる分野におきましては、国においては医薬費を抑制するため後発医薬品いわゆるジェネリック医薬品の普及に力を入れており、

新薬の開発が鈍化しているのが現状であります。しかし、国民の健康を守るためにはさらなる新薬の開発が必要であります。ただ、新薬開発に当たっては、医薬品の安全性を確認するために大規模な臨床研究を実施しなければならないなど、多額な費用を要する等の大変大きな課題がありますが、反面、やりがいがある仕事であります。

皆様方には高い志と、岐阜薬科大学の卒業生としての誇りを持って、医療分野で存在感を示すべく努力されることを大いに期待しております。

いずれにいたしましても、社会に出られたら今まで以上に勉強・努力が必要であります。楽しい人生、素晴らしい人生を歩んでいただくためにも一層の精進を期待しております。

そこで私の経験から、皆様方に饒(はなむけ)の言葉を一つ贈らせていただきます。

それは、禅の教えを凝縮した禅語の中にある言葉で、「直心是道」(じきしん、これ、みち)という言葉であります。

「直心」とは、「まっすぐな心、素直な心」という意味であります。「自分にとって悪い環境でも、愚痴を言わず、まっすぐに取り組んでいけば、必ず自分にとって素晴らしい結果を得ることができる」ということです。「後ろ向きで、愚痴ばかりをこぼして、何もしなければ何も得ることはできません。」これからの人生、前向きにしっかり努力・取り組んでほしいと思います。

皆様方は大きな可能性を持っています。自分自身の可能性を信じ、岐阜薬科大学の卒業生としての誇りを持って頑張ってください。

私ども岐阜薬科大学の教職員一同は、本日、自信を持って皆様方を社会に送り出すことができることに大きな喜びを感じております。

どうか健康に十分ご留意され、大いに活躍されることを祈念しております。

最後に、皆様方には卒業後も母校・岐阜薬科大学の更なる発展にご協力いただくことをお願いいたしまして私の式辞とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

平成29年3月11日

岐阜薬科大学長 稲垣 隆司